

特集

トップ インタビュー

自然と共に生きる元気な町

今回は屋久島町の荒木耕治町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等について、お話を伺った。

**住民・集落・行政が協働する
人情豊かなまちづくり**

—屋久島町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

本町では、第2次振興計画において「悠久の流れの中で、自然と共に生きる知恵と多様な集落の文化がとけあい、人々の営みが循環・持続していくまち」を基本理念とし、「加速する人口減少・少子高齢化に備え限られた財源で最大の効果を発揮し、住民・集落・行政が協働する人情豊かなまちづくり」を重点目標に掲げ、町民と行政が一体となったまちづくりを推し進めています。

併せて、若年層の都会への流出や人口減少及び集落過疎化に起因する各種問題に対処すべく「屋久島町第2期まち・

ひと・しごと創生総合戦略」を策定することで、町民の健康増進や離島特有の保険・医療体制の課題を解決に向けて取り組んでおります。

私は昨年10月に町長就任4期目を迎えます。前出の様々な計画にも町長として携わるなかで、様々な場面において、多くの方からのお声を聴き、住民の皆さまとの協働しながら得た意見を基にし、町民の福祉向上や子育て世代や高齢者に孤立感を抱かせない仕組みづくり、移動弱者にやさしい生活圏内交通の確立、第1次・第2次産業の活性化、脱炭素への取り組みなど町政の発展に取り組んでいるところです。

本町では、平成22年に第1次健康増進計画である「健康やくしま21」を策定し、現在は令和2年に計画期間を10年とした第2次計画を策定し、「自然と共に生きる元気な町」を目指すべき姿として、生活習慣病予防と改善やこころの健康づくり、歯の健康など6つの領域に分け、各領域において目標とする指標並び行動計画を推進しています。

TOP
Interview

屋久島町長 荒木 耕治

「健康やくしま21」において計画した内容に即した事業を通して、「自分の健康は自分でつくる」という認識と自覚を持つていただき、心身の健康に関する相談に対しては必要な指導や助言を行い、健康管理に関する意識を高めていただくよう努めています。そのうえで保健指導が必要であると認められる方やその家族に対して、保健師や看護師が訪問し、健康に関する問題を総合的に把握していただいて主体的に生活習慣の改善実施が図られるよう必要な指導が行える体制づくりを確立し、取り組みを進めています。

―力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

本町の一人当たり医療費は、鹿児島県平均よりは低いものの、コロナ禍による受診控えから一転して過去最高額を記録し、その後高止まりしている状況です。

また、本町は平均寿命と平均自立期間が全国平均と比較してともに低い状況にあり、この早世となっている原因を探るべく、SMR（標準化死亡比）を見てみると、生活習慣病に起因するものの値が高いことが分かりました。

これらの改善を図るには、病気の早期発見、生活習慣の改善に向けた早期の

取り組みを行うためにより多くの町民に特定健診や各種疾病に対する検診を受診することが最も重要です。

本町の特定健診受診率は、コロナ禍で一時代大幅に低下しましたが、令和4年度において、41・5%にまで回復しています。しかし依然として、目標実施率として掲げている50%には程遠い状態です。

そこで本町では令和3年度より実施している特定健診受診率向上対策事業で株式会社キャンサースキャンによるナッジ理論を用いた対象者の性質に応じ、それぞれ内容を変化させた文書の発送を行い、少しでも対象者の意識が向かうような効果的な受診勧奨に努めています。

併せて性質による分類や受診者の傾



特定健診の様子

向などを分析した結果、未受診者の約25%が何らかの病気で通院している方があったため、地元医師会並びに島内医療機関との連携を密にすることで、未受診者の掘り起こしを推し進めています。

また、若いうちから自身の健康状態を把握していただくために、30歳以上の方を対象に人間ドック補助金制度を整備しており、健診を受ける意識付けを行っているところです。

さらに健診受診者に対するインセンティブとして、屋久島町商工会と連携し、加盟店で利用できる「屋久島しゃくなげポイント」の付与を行っており、買い物1万円相当分のポイントを付与することで、受診率向上と島内消費拡大の相乗効果を狙っています。

鹿児島県国民健康保険団体連合会



特定健診結果報告会の様子

のマスコットキャラクターである「健康坊や」や健康機器をお借りし、町民体育大会など多くの人が来場する場において、健康づくりの特設ブースを設け、幅広い世代に向けて特定健診や各種検診の大切さを広く周知するための取り組みを行っています。

そのほかの事業として、町広報誌において、島内医療機関の医師によるフレイル予防のための「いきいき長生きコラム」や健康づくりに役立つ情報を掲載する「健幸だより」等のコーナーを設け、町民の意識・行動変容を促進させるような取り組みを行っています。

また、町全体としての事業に目を向けてみますと、空路・海路・道路の整備の充実化を進めています。これらは離島に住まう我々にとって、文字通り生



健康づくりの特設ブース

命線でもあります。

なかでも屋久島空港の滑走路延伸プロジェクトや老朽化の進んでいる高速船、フェリーの更新に向けた働きかけ等すべての産業並びに町民の生活にとって起爆剤であり、離島医療や少子化対策にとっても有益なものになると考えているところです。

以上のような多様な方面からのアプローチを通して、町民一人ひとりが主体的な健康づくりを実施できるようなサポートに全力を注いでく所存です。

大自然に身を置くことで こころとからだをリフレッシュ

「町長ご自身の健康について、普段から心がけていらつしやることがありましてらお聞かせください」

私は、健康に過ごすために「健康やくしま21」にも掲げている「こころの健康づくり」を最も重要視して日々を過ごしております。

これまでのコロナ禍において、厳しい行動制限などによる外出控えや各種イベントの相次ぐ中止などによる人との関わりも持つ機会が少なくなりましたことで身体の動きや認知機能が低下するコロナフレイルと呼ばれる状態になることが懸念されています。

また、こころが健康でないと体の健康

づくりや生活習慣の改善といった部分に目を向けることが出来ないのではないかと考えています。

幸運なことに屋久島は自然の宝庫です。公務のない日には、海へ魚釣りに出かけたり、海の荒れているときは、自宅の庭いじりをしたり、山での作業を行ったりと、趣味を通してなるべく体を動かすようにしています。加えて、大自然の中に身を置くことで心身をリフレッシュさせて、公務へ向けた活力をもらっています。

食事についても、1日3食の毎日の栄養の積み重ねなので、「こころの健康」にとつても「からだの健康」にとつても非常に重要なものだと考えています。本当は肉が大好きなのですが、地元でとれた魚を中心にバランスの良い食事を心がけた生活しています。

「最後に何か屋久島町のPRがございましたらお聞かせください」

屋久島は九州の最高峰宮之浦岳（1936m）を筆頭に標高千mを超える山が数多くあり、多くを山岳部分で占めていることから、「洋上アルプス」と呼ばれている山岳島です。樹齢数千年を超える屋久杉をはじめとする特殊な森林植生や亜熱帯から冷温帯に及ぶ植生の垂直分布等、貴重な自然環境・自然資源を有する本町は平成5年12月

に世界自然遺産、平成17年11月にラムサール条約、平成28年3月には「屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク」として登録され、日本で唯一のユネスコ三冠という栄誉をいただいています。

そして去る12月11日、世界自然遺産登録30周年を迎えました。記念すべき30周年の節目を迎えることができましたのも、町民の皆さまをはじめ、関係機関の皆さまのご尽力とともに、先達の血のにじむようなご努力の賜物であると、改めて心から感謝申し上げます。

世界のすべての人に関係するような、優れて普遍的な価値をもつ遺産として認められたということを再度認識し、「屋久島憲章」を礎として、豊かな自然環境を保全し、その自然と共にある人々の暮らし、すなわち環境文化を継承し有効に活用すること、そして、そこから生み出される恩恵を町民の皆さまや、屋久島を愛してくださる多くの来島者と分かち合い、持続的な地域づくりを推進してまいります。

11月25日には「世界自然遺産登録30周年記念シンポジウム」が開催され、島内外から町民や関係者約400人が参加しました。

脳科学者で屋久島おおぞら高校校長の茂木健一郎氏による屋久島の豊かな自然と多様な文化の中で学ぶことの価値について基調講演や世界自然遺産登

録30周年を振り返る町民インタビューの上映が行われました。

町民をはじめ多くの関係者の皆さんと共に、この島で生きていく者の決意表明である『屋久島憲章』に掲げられた「自然と人間が共生する豊かな地域社会づくり」の実現に向け取り組んでいくことを改めて決意したところです。

30周年を迎えたことを契機に、未来に向けた新たな出発点として、引き続き、世界に誇る日本の宝「屋久島」を守るため、島民一丸となつて、取り組みを積み重ねてまいりますので、初めての方もそうでない方もぜひ、屋久島町へお越し下さいますようよろしくお願い申し上げます。



世界自然遺産登録30周年記念シンポジウム